

をスタートしましたが、是非新たに支部加入をさせてくださいとの申し出により、現在では2支部増え、計14支部がそれぞれに頑張っております。

さて、先の選挙においては、栃木県看護連盟は他県に比べ、全国でも上位にあたる高得票を獲得いたしました。このことは、ひとえに会員の皆様のアンフィーニ活動の成果と大いに評価しておりますが、現実は私たちの満足とは裏腹に非情な結果となり、痛哭の極みでした。

しかしながら、嘆き悲しんではばかりはいられません。看護界を不死鳥のごとく再び舞い上がるためには、来る3年後の参院選において、私たちの代表を国政の場に送り出すべく再挑戦をすることです。

基本的には、県内14支部活動の強化を主体とし、アンフィーニ会員の増員活動を地道に継続していくことです。各支部長・支部役員を中心に、会員達と積極的にコミュニケーションを図り、人間関係を深めていくことが連盟活動への理解と、会員自らが活動に参加しようとする風土が培われていくものと考えます。

看護職の代表を国政の場に送ることは、今後益々厳しい状況下におかれるものと推測できます。

私たちの待遇改善はもとより、国民の皆様の安心・安全な医療を守っていくためにも、3年後の参院選は重要でかつ重い意義があります。会員の皆様の多大な御協力と御支援を、強く強くお願いしたいと思います。



足利支部長  
稻村 小夜子

3年後の参院選に向けて

昨年7月29日、第21回参議院議員選挙は、とても残念な結果でした。今回の選挙は自民党は民主党に完敗でした。それは看護界にとっても大きく影響し、私たちの代表であった松原まなみさんは、前回の参議院選挙より1万5,000票を上回ったが、目標の25万票には届かず、16万7,594票という結果で苦杯、議席を失ってしまいました。これは看護連盟にとって大きなショックでした。

振り返ってみると、前回の参議院選挙を反省し、3年前から「ベッドサイドから政治を変える」を合言葉に全国に沢山の支部が作られ、活動してきました。しかし、結果をみると看護師一人ひとりは、この言葉が意味するものを理解して、同じ目標に向かっていたのか疑問が残りました。

当足利支部を振り返ると、前回の選挙より倍の得票数でしたが、目標の700票には届きませんでした。私が頑張らなくても誰かがやってくれる。他人任せが、この結果を招いたのではないかと思います。しっかりと反省し、看護連盟の活動を、もっと沢山の人に理解してもらえるような支部活動をしていかなくてはならないと決意しました。

それには、足利支部内のネットワークの見直しを行い、定期的に看護職員全体や各病棟において研修会を開き、看護師一人ひとりの意識を高めるよう努めたいと考えています。

また、足利支部では、地元議員さんの大きな協力を得ています。今後も市民の皆様が、看護連盟に目が向けられるように活動を続けていきたいと考えています。

すでに3年後の選挙へ向けて、連盟本部の活動は始まっています。次期参議院選挙では、皆で笑って万歳三唱ができる事を誓います。

## 会員募集

ベッドサイドから政治を変える  
職場の声を政治に直結!!

本年の目標は

会員数 **6,500名以上**

選挙の基本は会員の数。数は力なり!!  
力強い栃木県看護連盟にしよう。

締切は 2/20(日)看連の総会代議数が決定)  
しかし、期間を過ぎても随時受付ます。